

佐々木 隆史先生（2009年9月）

大学を卒業して家庭医療学に出遭い、数年間、実際に携わったあと、名古屋大学医学部総合診療部を中心に1年間、外部研修を行う一環として、三つ葉の在宅医療に参加しました。

### ◎研修の目標

この1年間の一般目標としては、今後関わっていく地域の健康度を上げるために、必要な方法・手段を学習すること、そして診療所の医療水準を上げるために、理論を伴った知識・教育技法を理解すること。

在宅医療については、

- 1) 在宅患者の管理が行える：特に、癌末期・老衰等の肉体的・精神的疼痛や家族ケアを含むターミナル管理
- 2) 臨時の対応方法が述べられる：補液、抗生剤、酸素が必要になった、入院が必要になるかもしれない、疼痛がコントロールできない
- 3) 周りのスタッフとの協力ができる：病院との連携、ケアマネ・看護ステーションとの連携・共同ケア

の3つを主な目標として掲げました。

### ◎成果

2) 3) に関しては、さまざまな経験をさせてもらい、今後、自らが中心となって在宅診療を担って行くに当たって、大きな自信となりました。特に3) 周囲との協力体制については、今までの在宅診療では、看護師が軸であったり、自分が病院から担当しつづけていたので、連携の面では非常に勉強になりました。

あらゆることを自ら行ったので、料金や処方などのことも含め、在宅診療に関する医学的なこと、診療的なこと、さまざまなことを経験できました。困っても他の先生にも相談でき、足りないところ・自分の居ないときは常勤の先生に助けをもらい、朝にはカンファレンスを行い自分の症例をみんなで振り返ることができて、最初は週2回というわずかな時間でしたが、楽しく行えました。朝のカンファレンスでは、他の先生の困難症例をどのような対応をしたのか、どのような対応がふさわしかったのかなど、経験・学習を共有できたのが良かったです。

ただ、週二回であり、かつ火曜日・水曜日と隣り合った曜日であったので、経験しなかった癌などの看取りをあまり経験できず残念でした。8月から2ヶ月間は単位を倍に増やしてもらいましたが、巡り合わせ・運などもあって、残念ながら(?)自分の定期往診で

看取った人はいませんでした。

癌の疼痛コントロールはある程度の理解にとどまりましたが、在宅という、患者が見えない時間のほうが多い場面での、本人・家人への対処方法の説明、不安を解消する大切さは学べました。再度、麻薬等疼痛コントロールについては、緩和ケアの研修でも勉強していきたいと思います。

医療的な知識だけでなく、三つ葉の運営の仕方、そして何よりも、日本の在宅医療の在り方を変えようとする情熱を持った若き先生方と知り合えたことは、私の今後の財産になると思います。

### ◎これからの抱負

診療所に帰任して以降は、高齢化の進む大津市の診療所で、外来診療、訪問診療、検査などを行っていきます。在宅診療の需要は高い地域ですので、私が帰任した後は、在宅分野をどんどん開拓していきたいと思います。この半年の経験は大きな自信になりました。将来的には、「地域を健康にする」を目標に、住民の皆さんが健康で過ごせる地域、少なくとも健やかに老後を過ごせる地域を作っていきたいと思います。

### ◎三つ葉のスタッフの皆さんへ

半年間、ありがとうございました。最初は、ひとりぼっちの訪問にかなり戸惑いましたが、皆様の暖かいご支援のおかげで、楽しくやることができました。在宅医療を良くしよう、人生の後半をよりよいものにしてあげようとする皆様の情熱を、とても強く感じました。私も負けないように、自分の道を進んで行こうと思います。今後ともいろいろなことで交流をもてたら良いなと思います。

### ◎今後來られる先生へ

何を学ぶかを明確にしておけば、スタッフみんなで協力してくれます。日本の在宅医療を変えるかもしれない、若い情熱に触れることができます。医療内容はもちろん、情報共有の仕方やコメディカルとの連携は、在宅専門を目指す方でなく、私みたいに診療所で外来と訪問を行っていらっしゃる者に対しても非常に勉強になります。学べる内容は、学べる期間・週の日数によっても変わってくると思います。癌などの看取りを学ぼうとすると週の日数がある程度必要です。期間が長ければ、患者数は多いのでいろいろな疾患を診ることができ、今後の在宅診療の幅を大きくすることができます。